

算数 授業改善推進プラン

| | 課題 ※児童の実態から | 授業改善の手立て |
|----|---|---|
| 3年 | 基本コースでは、学習規律の定着が不十分の児童が3～4名いる。標準コースは、自信をもって発言する児童が多い。標準コースは、学習への意欲は高く、課題をしっかりと取り組めているが、多様な考えまで至らない。 | 基本コースは、視聴覚教材や、具体物、掲示物等を工夫し、児童の興味や関心を引き出し、楽しく取り組見ながら、基礎学力定着を図る。また、TAを活用し、個別指導を充実していく。3つの習熟別の特色に合わせて補助的なプリントを用意し、学習内容の理解を深めていく。どのコースも九九や一位数の繰り上がり、繰り下がり計算を授業の初めの3分間くらいで継続的に行い、基礎学力を付けていく。 |
| 4年 | 標準コースの中でも多様な解決方法を考え説明する児童が数名と少ないが、意欲は高い。基本コースは、忘れ物が多く前学年までの数や図形の概念が定着していない児童が数名と学力の幅が大きい。 | 標準コースは、自力解決ができるよう既習学習の想起を丁寧に行うとともに、自分の考えを説明できるよう、グループ活動を取り入れるなど、問題解決型の学習の定着を図る。基本コースは、TAの協力を得て、個別で再度説明を重ね、基礎学力を付けていく。 |
| 5年 | 全体的に長い時間集中して熱心に取り組む。基本コースでは、授業で正解していてもテストでミスをし、成果が数字に表れないことが多い。標準コースでは、多様な解決方法を考える児童が少ない。 | 習熟別クラスの特徴を活かし、指導計画や内容をグループの力に合わせて柔軟に進めていく。標準コースは、自分の考えたことが説明できるようペア活動等を取り入れるなど、問題解決型の学習の定着を図る。基本コースは、TAを活用し、個別指導を充実していく。 |
| 6年 | 標準・発展コースは、多様な解決方法を考え自信をもって積極的に説明する児童が少ない。標準コースは、例題から変化した問題や計算・単位ミスがある。基本コースは、苦手意識が高く、意欲が低い。下学年での学習忘却や計算ミスがある。 | 習熟の特色を生かし、指導計画や内容を柔軟に進める。基本コースは、主に解決方法と計算力を付ける。そのために、特別支援コーディネーターとの連携やTAとともに個別指導の充実を図る。標準や発展コースは、自力解決→説明力を付ける。また、学び合いで、多様な解決方法を理解する。 |

音楽科 授業改善推進プラン

| | 課題 ※児童の実態から | 授業改善の手立て |
|----|---|--|
| 1年 | <ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの基本的な奏法の定着。指がスムーズに動かない児童がいる。 伴奏や友達の声と合わせて歌えない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ペア学習で、友達の表現を見たり聴いたりしながら学習する。TAを活用する。 声の大きさや音の高さの見本を教師が示したり、友達の表現を見たり聴いたりしながら学習を進める。 |
| 2年 | <ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの基本的な奏法の定着。指がスムーズに動かない児童がいる。 伴奏や友達の声と合わせて歌えない児童がいる。 リズム視奏ができない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 特別な支援が必要な児童を抽出し個別に指導する。ペア学習で、友達の表現を見たり聴いたりしながら学習する。 友達のを聴きながら歌うように声をかけたり、教師が近くで歌ったりする。 リズム視奏ができる児童を見て、真似をさせる。また、言葉を当てはめて演奏させる。 |
| 3年 | <ul style="list-style-type: none"> どんな曲も元気いっぱい歌う児童がいる。 リコーダーの基本的な奏法の定着。運指がスムーズにいかない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 曲の感じを考えさせ、どんな歌声が合っているか考えさせながら歌う。また、自分たちの歌声を録音して聴かせる。 教師のリコーダーに色のついたシールを付け、どの穴をおさえているか分かるようにする。また、個別支援を充実させる。 |
| 4年 | <ul style="list-style-type: none"> リコーダーの基本的な奏法の定着。運指がスムーズにいかない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 教師のリコーダーに色のついたシールを付け、どの穴をおさえているか分かるようにする。評価Cの児童に関しては、音を限定させ、演奏できる部分を増やしていく。また、個別支援を充実させる。 |
| 5年 | <ul style="list-style-type: none"> 考えや想いの広がらない児童がいる。 技能の個人差が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> グループ練習、ペア学習等学び合いを充実させる。子どもの意見を取り入れより表現力を高められる指導に繋げていく。 演奏を聴き合い、よかった点や課題を意見交換する等、相互評価を活用しながら指導を積み上げる。 |
| 6年 | <ul style="list-style-type: none"> 粘り強く最後まで取り組めない児童がいる。 技能面の個人差が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> 評価Cの児童に関しては、音を限定させ、演奏できる部分を増やしていく。また、個別支援を充実させる。 グループ練習を取り入れ、演奏方法などを話し合いながら学習を進める。 |

図画工作科 授業改善推進プラン

| | 課題 ※児童の実態から | 授業改善の手立て |
|----|---|---|
| 1年 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる。 ・新しいことに挑戦したり、やってみたいという向上心が強く生き生きと活動できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童が興味・関心を持てるよう、声かけや題材提供をしていく。 ・TAに協力を仰ぎつつ、様々な表現を体験・実践していけるように体制を整え、一方で進度の遅れが見られる児童への支援を行う。 |
| 2年 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる。 ・その中で集中力が続かない児童も目立ってきている。忘れ物が続く児童も気になる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童が興味・関心を持てるよう、声かけや題材提供をしていく。 ・集中が続かない児童に対しては個別の支援を多く行い、集中出来る環境を整えていく。担任との連絡も密に取り連携していく。 |
| 3年 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる。 ・表現することを楽しみ、新たな発想で作品を生み出そうとしている。友だちの作品の良い工夫などを認めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童が興味・関心を持てるよう、声かけや題材提供をしていく。 ・表現に対しての関心が高いため、様々な技法やテーマを用いてその欲求を満たせるようにすると同時に達成感・充実感を味わわせられるような工夫をしていく。 |
| 4年 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に、まじめに取り組んでいる。 ・非常にゆっくりペースの児童が一定数いる。授業時間内に作業が終わらず休み時間等に補習が必要。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童が興味・関心を持てるよう、声かけや題材提供をしていく。 ・ゆっくりペースの児童には1回ごとの進度の目標を持たせ、それに近づけるように支援を行っていく。 |
| 5年 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持つ児童とそうでない児童の差が大きい。 ・集中力が途切れがちになり私語が多い事がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童が興味・関心を持てるよう、声かけや題材提供をしていく。 ・学級担任との連絡を密にし、座席の配慮等も行い集中できる環境を整える。 |
| 6年 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる。 ・発想力が豊かで自分なりの表現を追求しようとする一方、苦手意識を持つ児童も少数ながらいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童が興味・関心を持てるよう、声かけや題材提供をしていく。 ・個々の特性を生かし、豊かな発想力をより発揮できるようにするため、様々な材料を準備し個別対応ができる環境を整えていく。 |

家庭科 授業改善推進プラン

| | 課題 ※児童の実態から | 授業改善の手立て |
|----|---|--|
| 5年 | ・裁縫など細かい作業の技能面に個人差が見られる。 | ・保護者ボランティアの活用により、きめ細かい指導をすることが出来た。今後も継続していく。 |
| 6年 | ・意欲的に取り組める児童とそうでない児童の差が見られる。 ・制作や実習を好む児童は多いが、作業の機能面にも個人差がある。 | ・児童が興味・関心を持てるよう、学習の進め方を工夫し、声かけや題材提供をしていく。 ・実物投影機・資料提示を工夫し、イメージをもたせ、技能の習得・向上を図る。 |